

滋賀県大イベントカレンダー

新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる可能性があります。

7月

23日(土)、24日(日)

オープンキャンパス

8月

1日(月)～5日(金)

前期定期試験

8日(月) 夏季休業開始

19日(金)～21日(日)

地域活動実践ターム(未定)

9月

22日(木) 夏季休業終了

23日(金 祝) 後期授業開始

10月

6日(木) 第7回就職セミナー

(就職活動本番準備セミナー)

13日(木) 第8回就職セミナー

(秋冬のインターンシップの選び方)

20日(木) 第9回就職セミナー

(ES対策セミナー)

11月

5日(土)、6日(日)

大学祭「湖風祭」

10日(木) 第10回就職セミナー(面接対策)

17日(木) 第11回就職セミナー(GD対策)

24日(木) 第12回就職セミナー(ビジネスマナー講座)

26日(土)、27日(日)

特別選抜試験

12月

3日(土) TOEICテスト

27日(火) 冬季休業開始

1月

3日(火) 冬季休業終了

14日(土)、15日(日)

大学入学共通テスト

▽県大jiman30号についてご意見をお寄せください。
(下記QRコードを読み取ると、Webからアンケートの回答ができます)



2022 JULY
030
滋賀県立大学広報誌
県大 jiman

特集1

県大の「アツい」人

特集2

県大 jiman 30th ルックバック

教員紹介

突撃!! jiman な先生 伊丹君和 教授

コラム

Kendai Quest File.01 「えんぴつ塔」

県大 jiman

第30号のテーマは「熱中」です。皆さんには、時間を忘れるほど没頭してしまうようなことがありますか？
各学科の専門科目や課外活動、趣味やアルバイトなどなど。
大学生活には、「熱中」できる要素が散りばめられています。
今回は、あることに熱中している県大生・教授へのインタビューや、第30号を記念した特集、えんびつ塔の登頂記など、内容が盛りだくさんです。
ぜひ今回を機に、自分の中の「アツさ」を見つめ直してみてもいかがでしょう。

CONTENTS

特集

- 03 県大の「アツい」人
- 07 県大 jiman 30th ルックバック

県大 REPORT

- 09 突撃!! jiman な先生 伊丹 君和教授
- 11 Kendai Quest File.01 えんびつ塔
- 13 近江楽士（地域学）副専攻
滋賀県立大学ならではの学び

編集後記 テーマ：「アツい」といえば？



厚切りトースト

こんがり焼いた厚いトーストにバターをのせて、コーヒーと一緒に食べたい。

地域文化学科 4年 小林 すみれ



バレエの音楽

曲の展開が胸アツです。

人間関係学科 4年 谷塚 安由史



武道場

真夏の武道場は40℃になることも熱めます。

地域文化学科 3年 櫻木 建吾



お灸

実は幼い頃からお灸をやっています。あの熱さが心地いんです。

地域文化学科 3年 幸田 朱加



マーベル作品

マルチバースに突入した、最近のマーベル作品。

生活デザイン学科 3年 吉田 元春



厚い教科書

これは知識の厚さ、あと15冊ほど写っています。

人間看護学科 2年 西田 千尋



あそびあそびせ

「あそびあそびせ」という漫画にハマっています。

機械システム工学科 2年 岸 和俊



焼き芋

専門店が増えてきてうれしい。ねっとり派。

地域文化学科 1年 小畑 結子



ハリポッターシリーズ

ハリポッターシリーズが胸アツです。ファンタジックシリーズはハリポッターが手勢にはたまりません。

地域文化学科 1年 堀 胸音



Vaundy

「アツい」といえば、最近 Vaundy にハマっています。行きも帰りもずっと聴いていてやめられません！

地域文化学科 1年 米山 さくら



詩集を読む時間

静かな時間の中で、素敵な言葉に出会うと胸が熱くなります。

地域文化学科 1年 清水 理子



グンディ

神戸どうぶつ王国に推しのグンディとケープハイラックスが揃いました。

OB 高杉 昭吾

事務局
西村 知子 岡 拓実

学生広報スタッフ大募集！

広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。

私たちと一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。デザインや編集の専門知識が無くても大丈夫です。外部のデザイナーさんや編集者を招いて勉強会なども行う予定ですので、興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

Mail:kendaijiman.tw@gmail.com



Twitter:@kendaijiman

年2回発行

夏号7月上旬

冬号2月上旬

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第30号
発行 | 滋賀県立大学広報戦略委員会
編集 | 広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
TEL | 0749-28-8200 FAX | 0749-28-8470
E-mail | keiei_kikaku@office.usp.ac.jp
発行日 | 2022年7月
www.usp.ac.jp
紙面デザイン：学生スタッフ
写真：学生スタッフ

県大の「アツい」人



大学院環境科学研究科 環境動態学専攻
博士前期課程2年

橋 啓輔さん

今回の特集では、県大で「アツい」人をおふたり紹介します。ひとり目は、大学院環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程2年の橋啓輔さんです。

橋さんは学生生活においてマルチに活動されています。今年度は、ご自身の研究分野において日本生態学会の「ポスター賞 優秀賞」を受賞し、仲間と始めた「ぴあノバ」が、第2回武蔵大学主催ビジネスプランコンテストの「審査員特別賞」を受賞されました。ここでは、研究と課外活動における橋さんの活躍に迫っていきます。

研究はやっぱり大好きなカマキリで

県大には、カマキリの研究がしくて入学しました。5歳のときにカマキリを見て、「なんてかっこいい虫なんだ」と惹かれたんです。小学校ではカマキリをテーマとして自由研究を進めていましたが、中学生の頃に地元のカマキリがいるスポットが埋め立てられてしまいました。それから少し疎遠になってしまいましたが、大学受験のときに「やっぱりカマキリについて研究したい」と思い、現在に至ります。

カマキリの中で僕が一番好きなのは、国産のハラビロカマキリです。くちばしのような黄色い口と、少し大きめのお腹が可愛いポイントなんです。そんなハラビロカマキリを研究対象にしたいと思っていたとき、2000年代に入ってから外来種のカマキリが入ってきたことで起こっている問題に注目しました。それは、外来種が蔓延しているところではどんどん在来種の減少が見られる、というものでした。

「5歳のときからずっとカマキリが好きでした」

「ひたすら楽しんでるだけです、これが「熱中」と言えるのかもしれない」

この問題には Sexual cannibalism※が関係していたため、日本生態学会では『Sexual cannibalism に対抗するオスの適応が近縁種を駆逐する！？』という題目で研究の発表をしました。

実は最初、周りからカマキリをネタにして研究することを反対されていました。「草むらでバッタが100匹跳ねるのを見たら、ようやくカマキリが1匹見つけられる」と言われているくらい、見つけることが大変なんです。そのうえハラビロカマキリという在来種を扱わなければならないので、研究をする前に高い壁があるような感じでした。それでもこの研究が上手くいったときは、心から「やってやったぞ！」と思えましたね。

※交尾の際、メスが同種のオスを捕食する行為のこと。カマキリやクモなどの節足動物でよくみられる。

コロナ禍がきっかけで始めた「ぴあノバ」

ぴあノバは、県大の学生と地域をつなげるためのアプリ「琵琶湖の隅っこ」とサイト「ぴあノバ」を運営している団体です。コロナ禍を受け交流が減ってしまった学生達の状況をなんとかしたい、という思いが、この活動のきっかけとなりました。大切にしているのは、学生にとっても、地域にとっても、大学にとっても良い、ぴあノバ版の「三方よし」です。

ぴあノバでは具体的に、地域の情報発信（アルバイトの募集やお店紹介）や、課外活動の紹介を行っています。アプリでは登録している人達の自由投稿の閲覧、バスの時刻の確認、県大生が利用する県大ポータルサイト「USPo（あすぽ）」へのログインなどができます。準備中の機能をいくつか控えているので、これからもどんどん注目されていきたいですね。



「熱中」は楽しむことそのもの

大学生活において「熱中しているな」と感じたことを振り返ってみましたが、きっと今感じるのではなく、後々「あの時は熱中していたなあ」と思い出すのだと思います。どの活動も楽しんでるだけ、という感じです。楽しんでやってきたことが全部「熱中したこと」につながるのかもしれない。

県大生と高校生のどちらにも、とにかく自分のやりたいことを明確化することが重要だよ、ということを伝えたいです。やりたいことがないと、そもそも何に手を付けたいかわからないですね。せっかくの学びも、やらされてる感があるまま卒業を迎えてしまうのはもったいないじゃないですか。今やりたいことがある人はそれを続けてみて、やりたいことが特になくはない人は、まずそれを見つけることに全力を注いでほしいですね。

「アツい」人 県大の



B棟の裏にある「螺旋堂」。加子母木匠塾によって制作されたもので、現在は倉庫として活用されている。



ふたり目は、加子母木匠塾幹事の佐々木絢子さんです。部活やサークルとは少し違う学生生活の魅力についてお聞きしました。

加子母木匠塾の活動について教えてください。

去年の活動の流れとしては、5月に新入生向けに道具の使い方の講習を行いました。次に7月に作品を作る練習をします。去年は県大の近くのレストランに机と椅子を作って寄贈しました。そして8月に1週間くらいかけて水車を、それぞれの大学でパーツを分担して、8月は新型コロナウイルスの影響で岐阜県加子母村には行けなかったためそれぞれの大学内でパーツを作って、3月に加子母村に持ち寄って組み立てて、水車を完成させました。

例年、7月の練習で作る作品を設置してもらう場所は滋賀県や加子母村などから、毎年自分たちでアポをとって見つけます。8月は加子母村に貢献出来るものを作ります。また、定期的に8大学の幹事が加子母村に集まってミーティングを行い

ます。その時に、設置している過去の作品の点検やメンテナンスも行います。

どんな作品を作るかはどのように決めていきますか？

7月の練習では、1、2、3年生で班を作って2年生主体でデザインや図面を書いて、コンペを行います。最終発表日に、設置させてもらう場所の人、去年の場合レストランの店長さんに選んでもらって決めました。作品を必要としてもらっている人・場所を見つけて、その人に向け

て、その人に気に入って貰えるものをそれぞれの班で頑張って考えます。8月の加子母村での制作では大学合同で作るものを決めます。現在、8大学の幹事たちで今年の作品の詳細を模索しています。

木匠塾の活動でやりがいや熱中していると感じることはありますか？

去年の水車づくりでは、県大が担当したパーツを作っている時は「全然完成しないな」って思いながら作業していました。でも最後に8大学で加子母村にパーツを持ち寄った時

に、それぞれの大学で作ったパーツを組み合わせ完成した水車をみたら「すごいものを作ったな」と改めて実感して、「皆それぞれの大学で頑張っていたんだな」と思いました。そうやって完成した作品が利用されているのを見た時にやりがいを感じますし、なにより嬉しいです。

また、加子母村を訪れると、全然知らない先輩たちの作品がいろいろなところで利用されています。それらを見たり、利用者からお礼を言われたりすると、自分は携わってなくても嬉しいです。あと、加子母

村はお年寄りが多いので、若い学生が来るだけで嬉しいみたいで、たくさんお菓子をもらったり、応援してもらえたりするのでとても励みになります。

熱中ということいえば、作業に没頭しているときは当然熱中しています。あと、学科の課題などで忙しくてもこれだけ一生懸命に活動できて、今それについてこれだけお話しできていること自体が、熱中している証拠なのかもしれません。

木匠塾の活動が学科の勉強で生きることありますか？

私は生活デザイン学科で、特に住居分野に関心があります。そのため、学科では住居を設計するような課題があります。加子母木匠塾では道具を使って、実際に作品として大掛かりな作品を作るという経験ができるので、そこで培った感覚は学科の勉強にも生きていていると思います。

最後に県大を目指す高校生にメッセージをお願いします！

学科の話になってしまうけど、生活デザイン学科は思ったより忙しいよと言っておきたいです(笑)。でもその分、力はあると思います。県大は本当にいろいろなことができるから、生活デザイン学科に限らず、忙しすぎない程度にいろいろやってみて、自分の好きなことを探してほしいです。



去年、8大学合同で制作された水車。各大学でそれぞれの担当パーツを加工後、現地で組み立てた。



佐々木 絢子 さん

人間文化学部 生活デザイン学科 3年生
加子母木匠塾 幹事



加子母木匠塾 (かしもくしょうじゅく)

京都大学・京都工芸繊維大学・立命館大学・京都造形芸術大学・東洋大学・名城大学・金沢工業大学・滋賀県立大学の学生で構成。チームでのづくりをすること、同じ屋根の下で多くの学生が集まって生活することを通して、大学ではできない経験と学びを得ることを目的に活動。木材加工作業や地域交流イベントのほかに学生交流イベントなども企画。



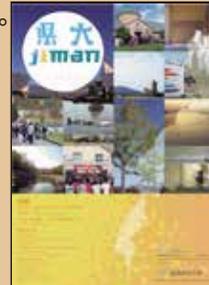
県大 jiman は今年で 30 号になります！
 今までスタッフの皆さんが熱意を注いでいた、県大 jiman の表紙に使われた
 風景の中でも現在のスタッフに人気のある風景を紹介します！



交流センター側 から見たえんぴつ塔

えんぴつ塔がそびえ立っていて、環濠といっしょに眺めることができる場所です。
 晴れた日にこのあたりで昼ご飯を食べられます。

4 号掲載



図書館の天井

普段外から見ることはあっても下から見上げることはないの、たまに見上げるととても綺麗で、いつもと違う雰囲気を感じることができます。

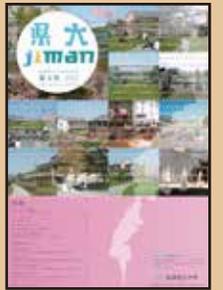
5・29 号掲載



D 棟側環濠の橋

駐輪場から A 棟に行くときによく使う橋ですが、外側から見ると環濠と橋のバランスがとても綺麗ですよ。

2 号掲載



グラウンド横の道

駐車場に続く長い道で大学が広いことを実感させられます。緑も多いので晴れた日に散歩したら気持ち良さそうです。

24 号掲載



A2 棟から見た 図書館とえんぴつ塔

見慣れた建物なのでいつもはなんとも思いませんが、時間帯によって見え方が全然違うところがとてもいいです。

7 号掲載



突撃!! jima な先生

伊丹君和 教授

基礎看護学の教授。滋賀県立大学が短期大学のときから教員として勤めておられ、未来看護塾にも結成当初より熱意をもって関わってこられた。

未来看護塾とは

近江楽座の1つで、地域の人々を対象に様々な場所（南三陸町田の浦地区などを含む）で健康支援活動を行い「未来の看護のあり方」を考えていくプロジェクトチーム。

人間看護学部の教授で、未来看護塾の顧問を務める伊丹君和先生。今回はお母さんのように学生と接し、手料理も授業などで振舞っていた先生の積極的な姿勢を取材しました。

未来看護塾に携わるきっかけを教えてください。

2003年、県大に人間看護学部が設置され、翌年に近江楽座の前身となる文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」事業に大学が採択されました。このプログラムで学生主体の地域貢献プロジェクトを

募集していて当時の基礎看護学の教授らと何か看護のプロジェクトを立ち上げようという話になりました。これが未来看護塾に携わるきっかけです。提案に賛同してくれた1期生・2期生の学生さんたちとともに地域の病院やNPO団体さんらを巻き込み、今の未来看護塾を作り上げていきました。未来看護塾は毎年プログラムに採択され続けているので、私は18年間にわたり継続して顧問として携わらせてもらっていることになりますね。

18年間この活動を続けてこられた中で印象に残っている出来事がありますか？

未来看護塾では病院や小学校、NPO 団体さんの施設などさまざまな場所で活動させてもらっています。その中でも印象に残っているのは発足当初の頃に行った緩和ケア病棟(1)でのイベントでしょうか。この病棟には定期的にティーサービスのボランティアに行っていたのですが、患者さんたちに少しでも楽しんでいただこうと、ハンドベルの演奏会を企画しました。演奏会に行くと、寝たきりのためベッドで臥床した状態で参加されていた患者さんがおられました。「ああ、この患者さんは動けないんだなあ」と思っていたのですが、演奏が始まると起き上がり、とっても嬉しそうな顔をされたのです。それが衝撃というか、なんというか。ほんのひと時の学生たちの活動でしたが、患者さんたちを笑顔に、そして元気にする力があることを実感し、「この活動は継続していかなければならない」と再確認した出来事です。

(1) 医学的な積極的治療ではなく、痛みを緩和する、和らげるケアをすることをメインにした病棟

先生が「熱中しているな」と思う活動は何でしょうか？

未来看護塾の活動そのものですね。私自身イベントごとが好きで、学生さんたちと一緒に企画したり話し合ったりするのは楽しいです。この気持ちが教員や未来看護塾の活動を続けている・やめられない理由にもなっています。地域貢献はもちろんなのですが、活動する中で学生さんたちが成長していく姿を見ることが私の生きがいです。

活動を通して学生の成長を感じる点がありますか？

積極的に未来看護塾に参加してくれる学生たちのコミュニケーション力や関わり方はほかの学生に比べて違うな、と感じます。また、普段の活動やイベントを考えると企画力や調整力が自然に身についているな、とも感じます。例年、彦根市内の商業施設で健康促進イベントを行っているのですが、これは4年生が卒業研究もかねて計画してくれています。



▲健康促進イベントで体操をする様子

以前は授業などで手料理を振舞っていたとお聞きしたのですが…

「食べる」ことの援助の授業(2)で提供していたスープのことですね。どんなスープにしようか、何度か試行錯誤しましたが、下宿生が多くいることもあり栄養たっぷりのスープにしました。わかめ、ほうれん草、あぶらあげ、カニカマ、ゴマなどを入れて、そこに愛情もたっぷり。学生たちからは美味しいと好評でした。6期生ごろのときに「このスープを湖風祭で提供したい」という学生の声があり、そこで「伊丹スープ」と名付けられました。このスープは未来看護塾の活動で訪れた宮城県南三陸町でも学生たちが振る舞い、地元の新聞にも掲載されました。さまざまなイベントで振舞っていたこのスープですが、現在は新型コロナウイルスの影響で提供できていません。

(2) 患者の食事を援助する看護技術演習で、看護師役がスプーンや箸で食事を患者役の口元まで運ぶ援助などを学ぶ

今後は未来看護塾にどのように関わりたいですか？

最近では学内のイベントを考えてもらうなど工夫しながら活動を続けてきました。自分たちに何ができるか考えて行うこと、継続して活動することが大切だと考えています。早くコロナが収まって、これまでと同様の活動ができるようになってほしいです。心と体が健康になるような支援活動であれば、どんな企画を行ってもいいのです。学生さんたちには、みんなでアイデアを出し合い、さまざまな活動を楽しみながら積極的に行ってほしいです。

最後に県大生へ向けてメッセージをお願いします。

県大は地域貢献大学です。地域に入り、地域の人と関わって、地域の問題を解決する。このような活動を行う中で、自分の専門性を再確認し将来の道を決めた卒業生もいます。皆さんも、近江楽座などの活動に積極的に取り組んで自分が進む道を見つけてほしいと思います。



▲取材中の様子

YendaiQUES

File.01 えんぴつ塔



はじめに...

滋賀県立大学を象徴する建物として「えんぴつ塔」を挙げる人は少なくないだろう。彦根の平原にそびえ立ち、一際異彩を放つ「えんぴつ塔」。その実態は謎に包まれている。今回、スタッフはその謎を解き明かすべく決死の取材を敢行した…。



らせん階段

- ・最上階付近はらせん階段になっている。
- ・最上階から太陽の光が差し込んでくる。



最上階

- ・最上階は彦根の街や琵琶湖を一望できる。
- ・とにかく絶景。
- ・風が強い。



出入口

- ・えんぴつ塔には守衛室の扉から入ることができる。
- ・通常立ち入ることはできない。



冷却塔

- ・えんぴつ塔の内部は機械が詰まっている。
- ・その機械を冷却するための巨大な冷却塔がある。

おわりに...

取材を通して普段知ることのできないえんぴつ塔の内部を明らかにすることができた。File.01と銘打ったが、続編は未定である。

To Be Continued...?

滋賀県立大学ならではの学び

持続可能な社会創造を担う未来志向の教育プログラム

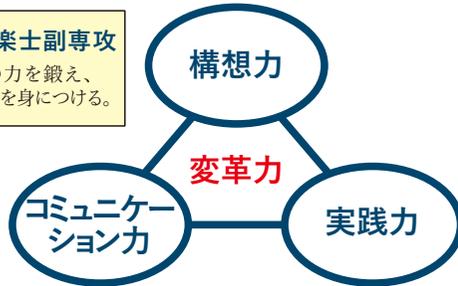
【近江楽士(地域学)副専攻】

地域や社会の課題に対して、既存概念を打ち破り新たな価値を創造し未来を開くために求められるのは「変革力」です。「近江楽士(地域学)副専攻」は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」という滋賀県立大学のモットーから生まれた実践人材の育成プログラムで「コミュニケーション力」、「構想力」、「実践力」の3つの力を鍛えて「変革力」を身につけます。

各学部での専門の学びと、全学部全学科対象のこの副専攻プログラムを受講することで、高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通じて現実起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養います。

近江楽士副専攻

3つの力を鍛え、**変革力**を身につける。



1 「ネットワーク力」「起業力」を身につける

副専攻には次の2つのコースがあり、CN コースでは「ネットワーク力」、SE コースでは「起業力」を養成します。

CN(コミュニティ・ネットワークコース)	
・	地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインする人材。
・	行政やNPO、市民活動の分野でリーダーシップを発揮する人材
SE(ソーシャル・アントレプレナーコース)	
・	ソーシャル・ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業的人材。
・	起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材。

【地域や企業経営者の方を交えたグループワーク】



【現場でのフィールドワーク】



副専攻所定の単位を修得し所属する学科の修了要件を満たすと、それぞれ「近江楽士(コミュニティ・ネットワーク)」、「近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー)」の称号が付与され、在学中に修了見込証明書を発行し就職活動で活用できます。

2 履修した先輩の声

Aさん
大学には、勉強だけ、バイトだけではなく人生でこの時期にしかない出会いやチャンスがたくさんある。そんなチャンスがちりばめられた副専攻での学びと出会い、そして学生という立場を思う存分利用すればきっと充実した4年間になるはず。

Bさん
地域の方々との交流を通して新しい価値観にふれ、自分の将来について考えるきっかけとなった。新しいことにも積極的に挑戦し将来の可能性を広げていきたい。

Cさん
企業の強みについて詳しく話を聞く中で、持続性のあるビジネスプランを考えることの重要性に気づきました。

3 次の動画をご覧ください。



近江楽士(地域学)副専攻を
やさしく説明しています。

担当：滋賀県立大学地域共生センター

受賞・表彰 (学年は受賞時点)

学生

第3回「のんびりぐらしの家」設計コンペ 金賞
環境科学部環境建築デザイン学科 4年 中谷 祐紀

第20回「北方領土の日」ポスターコンテスト 奨励賞
人間文化学部生活デザイン学科 3年 中谷 華世

第33回高分子加工技術討論会 学生優秀発表賞
工学研究科材料科学専攻博士前期課程 2年 永田 裕佳

日本化学会第11回CSJ化学フェスタ2021 優秀ポスター発表賞

工学研究科先端工学専攻博士後期課程 3年 石島 政直
工学部材料科学科 4年 奥村 吏来

第1回近畿学生住宅大賞 協賛企業賞
人間文化学部生活デザイン学科 2年 富田 真柚可

資源素材学会関西支部第18回『若手研究者・学生のための研究発表会』優秀発表賞

工学研究科先端工学専攻博士後期課程 3年 石島 政直

知財ビジネスアイデア学生コンテスト PaProSo
近畿経済産業局長賞(最優秀賞)/プロダクトデザイン部門・
関西みらい銀行賞
人間文化学部生活デザイン学科
3年 南研究室 B 中谷 華世・大高 日菜美・長谷川 菜月
審査委員特別賞
人間文化学部生活デザイン学科
3年 南研究室 A 山本 友香・戸田 理菜

木の家設計グランプリ2021 上位20選
環境科学部環境建築デザイン学科 4年 佐々木 美佳
椎葉 真結

日本レオロジー学会「第40回西日本支部修士論文発表会」
論文投稿奨励賞
工学研究科材料科学専攻博士前期課程 2年 永田 裕佳

ビジネスプランコンテスト 審査員特別賞
起業部 環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程
1年 橋 啓輔

日本生態学会第69回大会 ポスター優秀賞
環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程
1年 橋 啓輔

令和3年電気学会電力・エネルギー部門大会 YOC 奨励賞
工学研究科電子システム工学専攻博士前期課程
1年 川口 大貴

教員

2021年度日本機械学会奨励賞(研究)
工学部機械システム工学科 講師 田中 昂

人事

着任 2022年3月1日付



服部 峻
先端工学研究院
准教授

着任 2022年4月1日付



荒木 希和子
環境科学研究
院講師



仲村 龍介
先端工学研究院
教授



出島 一仁
先端工学研究院
講師



安澤 俊紀
人間文化研究院
講師

坪井 宏仁
人間看護学研究院
教授



吉川 直樹
環境科学研究
院講師



片山 仁志
先端工学研究院
教授



吉田 悦子
人間文化研究院
教授



谷口 友梨
人間文化研究院
講師



千葉 陽子
人間看護学研究院
教授

退職 2022年3月31日付

西田 隆義	環境科学部	教授
金谷 健	環境科学部	教授
パラチャンドランジャヤデワン	工学部	教授
安田 寿彦	工学部	教授
岩谷 久美子	人間看護学部	教授
木村 裕	人間文化学部	准教授
橋本 周子	人間文化学部	准教授
南 政宏	人間文化学部	講師
後藤 崇志	人間文化学部	講師
藤平 麻理子	人間看護学部	講師

滋賀県立大学 公式 Instagram ページ

【アカウント】 @univ_shigapref
【URL】 https://www.instagram.com/univ_shigapref/



学生 Instagram
スタッフ活躍中!
ぜひ、フォロー
してください!